はまた別に存せしなるべし。）

十月。直賴、珠洲郡高座宮別當高勝寺に、下地を寄進す。

【須須神社文書】　珠洲郡　九三六

奉二寄(寄)進一下地之事

合伍段者　在所有［　］

右彼下地者、仍二志有一、高勝寺□寄進申處也。但毎年兩度□(之)段錢、同公方わり役之時者、仰付候はゞ御さた可レ有。其外者違亂之儀あるまじく候。仍寄進狀如レ件。

寛正四年十月吉日　　直　賴　在判

高　勝　寺

惣　中

十二月廿七日。幕府、中院通秀領江沼郡額田莊・加納八田莊代官朝日時基の不法を停め、通秀をして直務せしむ。

【中院文書】　九三七

加賀國額田庄・加納八田庄半分等事、朝日孫右衞門尉時基背請文之旨、年貢不法之上者、可レ被レ致二直務一之由所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

寛正四年十二月廿七日　　散　位　在判

信濃守　在判

中院家(通秀)雜掌

寛正五年　甲申　紀元二一二四

十二月廿一日。幕府、中院通秀領江沼郡額田莊・加納八田莊半分代官朝日敎貞の不法を停め、通秀をして直務せしむ。

【中院文書】　九三八

加賀國額田庄・加納八田庄等半分事、朝日近江守依二不法懈怠一、去七月十一日重雖レ捧二請文一、猶以云二去年未進一云當年貢一、一向不二敢納一之上者、任二彼請文之旨一、可レ被レ致二直務一之由、所レ被レ仰下一也。仍執達如レ件。

寛正五年十二月廿一日　　信濃守(諏訪貞通)　在判

散　位　在判

中院家(通秀)雜掌

十二月廿五日。幕府、赤松政則をして山城臨川寺領石川郡大野莊に諸公事以下を免除し、守護使の入部を停めしむ。

【臨川寺文書】　山城　九三九

臨川寺領加賀國大野庄付得藏地頭領家分諸公事并段錢・守護役・檢斷等事、被二免除一訖。早任二康正二年十月九日御判之旨一、向後停二止守護入部一、可レ被レ全二寺家一所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

寛正五年十二月廿五日　　尾張(畠山政長)守　在判

赤松次郎(政則)法師殿

寛正六年　乙酉　紀元二一二五

二月廿八日。良憲、珠洲郡高座宮別當高勝寺十二房供免田の用途を注す。

【須須神社文書】　珠洲郡　九四〇

高座山高勝寺十二房供免田地之事

合貳千七百苅　者

右件免田者、毎年二月常樂會并大師講、三月七日八日九日童竪義并衆徒一七ヶ日法華問答講三十坐、卯月七日八日舞童、七月自二朔日一社頭一七日兒大衆參籠日夜不退勤行、同本堂一七日兒大衆參籠日夜不退勤行、八月十四日十五日舞童、四季之八講、長日不退最勝王經、仁王般若經、法花妙典三部講經等、并毎朝轉讀大般若經、并毎月廿八日大日講、一品經、法花問答講一問一答、如レ此勤行、無二懈怠一奉レ致二御祈禱一處也。

寛正六年二月廿八日　　良　憲　在判

九月二日。幕府、石川郡白山宮長吏をして、同社東神主の杉原賢盛所領水島保末正名を違亂するを停めしむ。

【遺編類纂】　九四一

杉原伊賀(賢盛)守方知行分水嶋保内末正名事、東神主無レ故及二違亂一候之旨、就レ被二歎申一候、可レ沙二汰付領主一之由、堅被二仰出一候。其段爲二御心得一被レ啓候。猶以自然之時宜、不レ可レ有二等